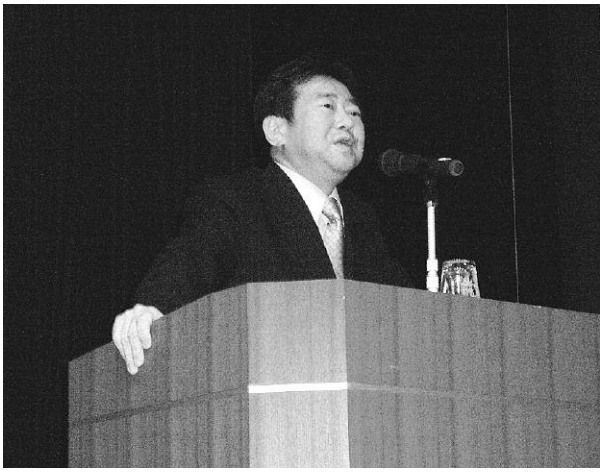
他者とのコミュニケーション能力を持つ若者の育成を

－平成20年度富山県東部教育事務所　小中学校校長研修会－

課外授業講師派遣制度は、先生方への「出前講座」にも会員を派遣するよう拡充しているが、



講師　藤井久丈教育問題委員長

４月10日㈭には、富山県東部教育事務所からの依頼により、水橋ふるさと会館で行われた小中学校校長研修会において、藤井久丈氏（医療法人社団藤聖会理事長）が「医療における時代の流れと夢・教育」と題して講演した。

講演では、日本の教育を、東京オリンピック開会式での日本選手団の行進に象徴される「全体主義」と、昨今の過剰なまでの「個の重視」の両極の間を揺れ動く振り子に例え、全国高等学校ＰＴＡ連合会会長時代の活動や自身の病院経営での工夫について交えつつ、トップに立つ者が部下をしっかり掌握し熱意を持って取り組むことが重要と訴えた。

課外授業講師派遣制度

平成13年度から始まった課外授業講師派遣制度が今年度もスタートした。経済人の出前授業として県内各学校からの注目を集め、今後も既に多くのご要望をいただいており益々の活躍が期待される。

第１回課外授業　黒部市立宇奈月中学校

４月24日㈭、大橋聡司氏（大高建設㈱取締役社長）が、母校の黒部市立宇奈月中学校において、全校生徒131名を前に、「夢を持って生きる」と題して課外授業を行った。

大橋社長は、課外授業が母校である同中学校の創立記念日に行われたことから、最初に中学時代の思い出や進路選択の経緯などを紹介し、後輩たちに母校に誇りを持つことなどを説いた。主題では、大リーグで活躍中のイチロー選手らを例に挙げ、夢に向かって一生懸命頑張れば道は開けると話し、また、親を大切にするとともに、コミュニケーションの第一歩である挨拶の大切さも訴えた。

「夢に向かって一生懸命頑張れば、道は開ける」と説く大橋社長

今年度派遣人数延べ７人に －課外授業講師派遣制度－

第２回課外授業　氷見市立南部中学校

６月12日㈭、粉川義弘氏（野村證券㈱富山支店長）は、氷見市立南部中学校において、３年生73名を前に、「自立への一歩『生き方を考える』～社会の一員として～」と題して課外授業を行った。

粉川支店長は、今後の社会は、「少子高齢化」、「グローバル化」、「フラット化」がキーワードであると説明。インターネットの普及が地方と都会との格差をなくし、今はどこでも誰でもチャンスが均等にある時代だと述べた。夢を持つことが大切と説き、実現のためには具体的な目標を持ち、「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」ように一生懸命努力することが重要であると強調した。

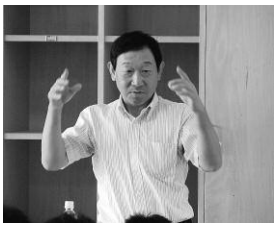
また、人間は一人では生きられない、先生や家族の言葉に耳を傾け、感謝することを忘れないでほしいと語った。

夢を持ち、一生懸命努力してほしいと話す粉川支店長

第３回課外授業　南砺市立福光中学校

６月24日㈫、谷中康弘氏（㈱神戸製鋼所北陸支店長）は、南砺市立福光中学校において、３年生85名を前に、「豊かに生きる」と題して課外授業を行った。

谷中支店長は、入社後に取り組んだ様々な仕事を振り返りながら、心（愛情を受け、また与えること）技（仕事や報酬）体（健康や体力）で自分が納得できる生き方が「豊かに生きる」ことだと語り、現状に満足する謙虚さと更に上を目指す向上心を持ってほしいとエールを送った。また、ライバル会社との厳しい受注競争などビジネスの現場でのエピソードを紹介し、国際経済の中で日本が生き残るためには、英語、特に聞く力が必要であると説いた。



家族への想いが仕事の力になると話す谷中支店長

第４回課外授業　南砺市立吉江中学校

６月27日㈮、久郷愼治氏（㈱久郷一樹園代表取締役）は、南砺市立吉江中学校において、３年生83名を前に、「富山の未来を考える」と題して課外授業を行った。

久郷社長は、中尾代表幹事に酒席で「昆布は面白いぞ」と声を掛けられ、門外漢ながら学んでいくうちに、富山と北海道や鹿児島、沖縄などとの歴史的文化的つながりを学んだと語った。そして、「昆布まつり」のバックボーンは、「板子一枚下は地獄」の北前船で昆布や薬を運んだ先人の開拓精神で、バブル崩壊後の地域経済を活性化したいという想いが込められていたと説いた。終わりに、中学時代の先生が瞳を潤ませて生徒にいじめを諫めた思い出に触れ、軽はずみな気持ちでも決していじめをしてはいけないと訴えた。

誰にも誇れる故郷にしようと語る久郷代表

第５回課外授業　富山県立高岡工芸高等学校

７月９日㈬、飴 久晴氏（コーセル㈱取締役会長）が、富山県立高岡工芸高等学校において、１年生201名を前に、「生きること働くことの喜び」と題して課外授業を行った。

飴会長は、若い頃に会社を倒産させた経験を踏まえ、「顧客が喜ぶサービスや商品を提供できていないからこそ倒産する。誰かの役に立ち『ありがとう』と言ってもらえる人になることが大切」と説いた。そして、誰でも自分にしかない「強み」を持っており、早くそれを見つけて、それで勝負してほしい、と訴えた。また、「人は失敗しなければ成長できない。失敗を楽しみ、成功を戒めるように考え、自らの行動で世の中を動かしてほしい」と語った。

人の役に立つことにこそ生きる値打ちがあると語る飴会長

第６回課外授業　黒部市立高志野中学校

７月10日㈭、 渡邉洋一郎氏（ＡＮＡクラウンプラザホテル富山総支配人）は、黒部市立高志野中学校において、２年生96名を前に、「働くことの喜びや苦労」と題して課外授業を行った。

渡邉総支配人は、ホテル業務はお客さまにイメージや思い出を売る仕事であると説明し、満足して帰っていただくことが何よりも代え難い喜びと語った。

組織はチームワークで動くことから、今のうちからどんなことでも自らに与えられたことを一生懸命やり遂げる強い責任感を持ってほしいと訴え、少しだけ努力してあきらめるのではなく、できるところまで頑張れば道は開ける、逃げてはいけないと強調した。

頑張れば道は開けると話す渡邉総支配人

第７回課外授業　射水市立射北中学校

７月15日㈫、牧田和樹氏（㈱牧田組取締役社長）が、射水市立射北中学校において、２年生134名を前に「人として、人間として～よりよく生きるために～」と題して課外授業を行った。

牧田社長は、「お金では買えない『時間』の積み重ねが人生。また、人生は必ず自分以外の人と過ごすもの。そうした社会に生きる以上、他者にも『心』があることを知り、思いやりを持つことが大切」と説いた。さらに、「知識と経験が掛け合わさって知恵が生まれる。知識が０でも経験が０でも知恵は身につかない。社会の中で思いやりを発揮するには、知恵の力が必要」と語りかけ、これから取り組む「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を、単なる体験に終わらせず責任ある経験にしてほしいと訴えた。

１秒１秒を大切にしてほしいと説く牧田社長

富山県高等学校工業科主任研究協議会の研修会

課外授業講師派遣制度は、先生方への「出前講座」にも会員を派遣しているが、７月２日㈬には、富山県高等学校工業科主任研究協議会の依頼により、富山県総合教育センターで行われた同協議会の研修会において、若野富男氏（㈱若野鋳造所取締役社長）が「ものづくりの現場での苦労話や将来への展望」と題して講演した。

講演では、若き日には衰退産業ではないかと自ら危惧した鋳造業にあって、職人技を要する付加価値の鋳物造りで業績を拡大してきた軌跡を紹介。社員には努力を求める一方、４人いる部長を60代から20代に刷新するなど若手を信頼した社業運営について語り、「創造的失敗を恐れてはいけない」と製造業への熱い想いを受講した教員たちに訴えた。

若者のやる気を引き出してやることが大事と語る若野社長

課外授業講師派遣制度が通算90回を突破

－平成20年度は延べ10人を派遣－

第８回課外授業　氷見市立灘浦中学校

８月12日㈫、吉岡隆一郎氏（㈱文苑堂書店取締役社長）は、氷見市立灘浦中学校において、全校生徒60名を前に、「夢をもち、社会に飛びたつために」と題して課外授業を行った。

吉岡社長は、仕事を成功するためには、まず仕事を良く知ること、さらに仕事を好きになること、さらには、仕事を楽しめることがポイントと語った。また、目標や計画を紙に書いて、随時チェックすることが重要であるとアドバイスした。例えとして、20回できる腕立て伏せを25回できるようになるためには、計画を立て、実行し、上手くいかなくても、頑張って自分を向上させることが必要と説いた。

仕事を楽しむことが成功のポイントと話す吉岡社長

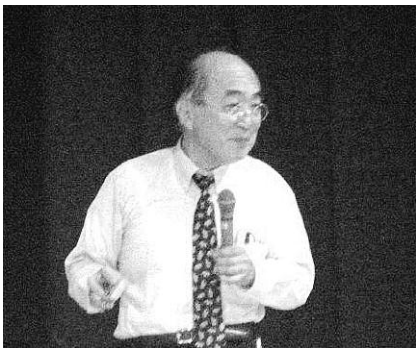
第９回課外授業　富山市立呉羽中学校

９月19日㈮、林和夫氏（朝日建設㈱取締役社長）が、富山市立呉羽中学校において、全校生徒624名を前に、「学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、松下幸之助氏が「学問がなかったからこそ素直に教えを請い、貧乏だったからこそお金を大切にでき、病弱だったからこそ身体を大事にした」と成功の要因を語った逸話や、船井幸雄氏が「素直さ」「プラス思考」「勉強好き」を伸びる人の３要素に挙げていることを紹介し、生徒たちにエールを送った。

また、「働く＝端(はた)を楽(らく)にする」との語源を紹介し、人の役、世の中の役に立つことこそが働く意義だと信じて事業に取り組んできた、自身の想いを語った。

最後に、自分で自分の限界を作らずチャレンジしてほしいと訴え、後輩たちへのメッセージを結んだ。



生きている事には必ず理由があると話す林社長

第10回課外授業　富山県立魚津高等学校

10月４日㈯、新田八朗氏（日本海ガス㈱取締役社長）が、富山県立魚津高等学校において、１年生240名を前に、「これからの日本を担うみなさんへ」と題して課外授業を行った。

新田社長は、学校でも会社でも勉強の連続であると語り、中田英寿がセリエＡに挑んだ際の「世界の中での自分の立つ位置を確かめたい」との言葉を挙げ、試練を乗り越えた後の楽しみをイメージして前向きに取り組んでほしいと説いた。

また、職業選択の幅を広げるためにも基礎をしっかり学ぶことが重要だと語り、最後に、21世紀を拓く人材として英語、ＩＴ、男女協働を身につけてほしいとエールを送った。

海外進学など夢は大きくと語る新田社長

課外授業講師派遣　好評裡に
～西から東から依頼相次ぐ～

第11回課外授業　富山県立大門高等学校

10月24日㈮、林不二男氏（㈱和楽美容室取締役社長）は、富山県立大門高等学校において、1、2年生241名を前に、「今を真剣に生きる」と題して課外授業を行った。

林社長は、生きるうえでは、コミュニケーション能力を若いうちから高めていく必要性があり、そのためには、話すことと同様に相手の話を上手に聞くことも重要であると説いた。また、好きかつ得意なことを職業として選択し、人に喜んでもらえれば最良であると語り、さらに、仕事についた後は日々を真剣に生きてほしい、真剣に生きれば次の段階が見えてくるし、夢の実現に一歩一歩近づいていけると訴えた。

今を真剣に生きれば夢の実現に近づけると話す林社長

第12回課外授業　高岡市立国吉中学校

11月6日㈭、中尾哲雄氏（㈱インテックホールディングス取締役会長）が、高岡市立国吉中学校において、全校生徒122名を前に、「夢をもって生きよう」と題して課外授業を行った。

中尾会長は、終戦直前に魚津へ疎開する途中の駅で見知らぬ女性からおにぎりをもらった思い出を紹介。自身が受けた恩義を社会貢献で返したいとの想いで様々な仕事に取り組んでいると語った。また、農協職員から海外留学し東大教授、さらには熊本県知事となった蒲島郁夫氏の例を挙げ、「自分が持つ価値を世に問う姿勢がなければ感動、感激は得られない」と説いた。最後に、母校を心のよりどころとして、夢と希望を持って輝いた人生を送ってほしいと締めくくった。

人は気づかぬ所で恩を受けていると説く中尾会長

第13回課外授業　黒部市立鷹施中学校

11月20日㈭、中尾哲雄氏（㈱インテックホールディングス取締役会長）が、黒部市立鷹施中学校において、全校生徒243名を前に、「夢・私の歩みきた道」と題して課外授業を行った。

中尾会長は、野球に打ち込む傍ら、英語を武器に戦後の貧しさを抜け出したいと外交官を夢見て勉強したことを披露。たとえ実現しなくても夢を持ち続けることが人を輝かせ成長させると強調した。

また、感謝の心と感動体験が人生を豊かにすると説き、文学や音楽に積極的に触れてほしいと訴えた。最後に、仕事で東京や海外にいても心の支えは母校のあるふるさとであり、短い中学生活の中で友達や先生との思い出をたくさん作ってほしいと語り掛けた。

母校の校旗を背に思い出を語る中尾会長

第14回課外授業　富山県立上市高等学校

11月26日㈬、松田昭博氏（㈱みずほコーポレート銀行富山営業部長）は、富山県立上市高等学校において、1年生160名を前に、「人として～生き方を考える～」と題して課外授業を行った。

松田部長は、サッカーに打ち込んだ少年時代や、入行に至った経緯、入行後も英語を猛勉強し留学したことなど、自身の経験を紹介しながら、人生には必ずターニングポイントが訪れると語った。

「本気になれば行動が変わる、行動が変われば結果も変わる」と強調した。自分の潜在能力を信じ、高い目標を持って常に努力すること、目標が高ければ高いほどストレスも多いが、ストレスは自らの器を大きくする絶好のチャンスと捉えてほしい、とエールを送った。

目標を持って努力することが大事と話す松田部長

今年度は16校の課外授業に講師を派遣

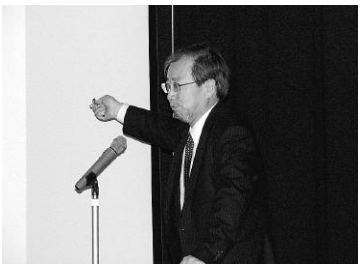
第15回課外授業　富山市立城山中学校

1月23日㈮、永井信次氏（伊藤忠商事㈱富山支店長）が、富山市立城山中学校において、全校生徒346名を前に、「夢や目標、感動、思いやりを持って生きる」と題して課外授業を行った。

永井支店長は、外語大時代に８ヵ月間ユーラシアを外遊した際、社会の底辺の生活を目の当たりにし、「困っている人々を助けたい」と商社に就職したことを紹介。また、大学時代に司馬遼太郎氏の講演に感動して文学好きとなり、感銘を受けた作品のうちトルストイの民話「人は何で生きるか」を引いて、他者に愛情を持って接することが社会への貢献に繋がると説いた。

また、目標を自分の力よりやや高めに置くと、挑戦意欲が高まり、達成すれば自信がついて一層頑張れる好循環を生むと助言。

「夢や目標を持ち努力すれば気分よく生きられ、感動や思いやりを持って生きれば人生は楽しい」と締めくくった。



自分を高める人と交わってほしいと語る永井支店長

第16回課外授業　富山市立速星中学校

1月30日㈮、新田八朗氏（日本海ガス㈱取締役社長）が、富山市立速星中学校において、2年生277名を前に、「21世紀の日本を担うみなさんへ」と題して課外授業を行った。

新田社長は、地球の人口から考えれば「同じ学校で学ぶ」というのは計り知れない確率の出逢いであり、高校、大学等と進みながら「縁」を広げることが人生を豊かにすると説いた。さらに、同時代に生きる人々は「ライバル」であっても「敵」でないのであり、他人を陥れて自分だけが成功しようという狭い考えを持たないようにと諭した。

そして、自分の人生を慌てて一本に絞らず、その時々に真剣に考え、心が定まったら邁進してほしいとエールを送った。

将来どんな仕事に就くとしても基礎の勉強が大事と語る新田社長